

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会/陽光保育園/板橋第十小学校学童クラブ 発行日 2009年12月19日
編集「明日にむかって」編集委員会 住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

60号

地域新聞『明日にむかって』は、おかげさまで60号発刊にいたしました。陽光保育園創立60周年の記念行事をお知らせする号がちょうど60号の節目にあたり感無量です。「地域に保育園の存在を知らせていきたい」と、1987年11月3日に創刊。以来22年間、その時々の保育情勢や、園の取組み等を紹介してきました。現在、毎月5,500部、年3回発行しています。在園・卒園保護者、地域のみなさん、旧職員、区内・区外の保育関係者に、手配りと郵送で届けながら、みなさんと繋がっていることを実感しています。22年間続けられたのは、全国に読者がいることと、伝えたいことがたくさんあるからです。保育制度が岐路に立たされている今、この新聞の果たす役割はさらに大きくなっていくと、強く思います。どうぞこれからも地域新聞『明日にむかって』をよろしく願っています。(T・R)

◆午後の部◆ レセプション

「レセプション」は陽光保育園で開催。60年の歴史が見える写真パネルでいっぱいの中、たくさんの方から陽光保育園での思い出や励ましの言葉をいただき、なごやかな会となりました。卒園・在園保護者の手作り紙芝居は、みんなで創ってきた陽光保育園の歴史がよくわかり、参加者も感動でいっぱいでした。



▲社会福祉法人陽光会理事長 星野紀のあいさつ



▶来賓のお話に耳を傾ける出席者のみなさん。壁面には60年の歴史を物語る写真の数々

陽光保育園

創立60周年

記念行事は大盛況！ みなさまのご協力に感謝します。

陽光保育園は8月25日に60歳の誕生日を迎えました。それを記念して、9月13日(日)に、午前「みんなのつどい」、午後「レセプション」を開催しました。午前の部も午後の部も、大勢の参加があり、おおいに盛り上がりました。昨年暮れから時間をかけて取り組んでくださった実行委員のみなさま、また、当日参加してくださったみなさま、ありがとうございました。



◀心に染みたベトロ・シヨーケン・大城さんのギター演奏

◆午前の部◆ みんなのつどい

「手作りで、みんなが参加できるもの」を目標に、みんなでつくってきた「みんなのつどい」は、板橋第十小学校の体育館をお借りして行いました。300人をこえる参加者みんなが主人公になって、歌い・踊り・笑い、楽しく60周年をお祝いました。



▶オープニングは陽光保育園職員も参加している太鼓サークル「どん舞楽鼓」によるぶち合せ太鼓でいせいよく！



◀子どもも大人もみんなでリズム。もしもしカメラよカメラさんよ〜「楽しいね」



▼リズムの最後は300人で踊るソーラン節。「陽光丸の出航だ！」



▶60周年を祝っての餅まきです。陽光七福神の登場です



▲父母の会を中心につくった大きなくす玉。子どもたちがくす玉の紐をひっぱります。さあ、割れるかな？ やったあ！ 見事に割れました。「輝け！ 未来へ陽光っ子!!」

●みんなでつくり、みんなで参加した「みんなのつどい」

60周年記念行事企画委員には、在園・卒園保護者、職員、理事が参加し、午前の部「みんなのつどい」と午後の部「レセプション」に担当を分担しました。

「みんなのつどい」実行委員会では、「陽光保育園らしい会」にしたいと、「手作りの参加型にする」「当日までの取り組みの中で繋がりがあふれることを目標にしました。発想豊かで楽しい企画がたくさん出されるなかで、最終的には、保育で大事にしていることを親子で体験できるように、リズム・歌をプログラムに入れることが決まりました。また「くす玉割り」や、全員で踊る「ソーラン節」など、みんなが参加しやすい構成を考えました。「ソーラン節」は職員が出前講師になり、練習を重ねました。特に苦労したのは「くす玉」作りです。予算の関係で、一から手作りです。「やりませう」と手を挙げてくれた保護者が4か月ほど、月に数回集まって、張子をしている姿がありました。そしてついに、「つどい」の前日、金ぴかの大きなくす玉が完成しました。

当日は150組の親子を含め、300人余りの方が参加し、大盛況でした。思っていたなかった方々の顔も見え、陽光保育園のつながりの広さと深さを感じました。ぶち合せ太鼓に始まり、リズム、荒馬踊り、歌、ソーラン節、餅まき、そして、くす玉割りへと進みます。ソーラン節はみんなでハチマキをして、大人も子どもも大勢参加してくれました。

どの内容をとっても子どもたちの屈託のない笑顔がいっぱいでした。子どもを中心に考えた大人のよい関係が、この笑顔をもたらした。今の保育を支えてきたことを感じて胸が熱くなりました。

みんなのつどい担当 徳留人美(主任保育士)

●なごやかに行われた「レセプション」

「レセプション」をどのようなものにするかの話し合いは、誰もが初めてのことで、手探りの状態から始まりました。場所のこと、内容の進め方等決めていかなければならないことがたくさんあって不安でしたが、8回の実行委員会の中で、知恵を出し合い、当日を迎えることができました。特に「陽光保育園の歴史を紙芝居にしよう」という提案は大いに盛り上がり、時間のない中で文章を何度も何度も書き直し、紙芝居の絵を在園保護者に依頼し、みんなで彩色しました。陽光保育園を想う気持ちが集まって完成させることができました。記念行事直前の実行委員会でも音楽を挿入して演じたときは感動しました。

レセプション担当 今野 静(栄養士)

「レセプション」も100名以上の参加があり、陽光保育園のホールは大にぎわいでした。来賓の方の演奏、メッセージに始まり、ピアノとギター、の演奏、手作り紙芝居と盛りだくさんでした。紙芝居は特に「陽光保育園の歴史がよくわかってよかった」という声が多く聞かれました。壁一面に貼った写真などの展示物も、みなさんに興味を持って見ていただきました。 広報担当 細川 律子(事務主任)

キラキラ宝箱の中身

岩田 真由(在園保護者)

この度は60周年おめでとございます。大事な節目に立ち合えて光栄です。

私事ですが、陽光保育園でお世話になり始めたのは約6年前です。その頃はまだまだ新米ママで、子どもはかわいけれど、子育てはどこか不安で孤独。ママ友作りもきこなかったと思います。

そんな頃、陽光の父母として行事に関わるようになり、仕事場の多いこと！例えばバザー。「日曜日なのになあ」。けれど、一度売り場に立つてみると、その面白さはまぎれませんでした。後援会の行事にも重い腰を持ち上げて参加してみると、先生方や在園、卒園の父母、地域の方が立場を超えて、肩寄せ合いお酒や会話を楽しんでいます。子どもを中心にみんなで何かを成し遂げるのって、なんてウキウキワクワクなんだろう！この一体感！親である私が積極的に楽しんでいくうちに、いつのまにか子育ての不安や孤独から解放され、親子してすっかり陽光っ子になっていました。

私は最近密かに「陽光保育園は板橋の宝箱」だと感じています。その宝箱を開けると、たくさんキラキラした宝石が詰まっています。子どもたちの歌声や笑顔はもちろんなこと、3世代、はたまた4世代と世代を超えた交流や若男女を問わず信頼関係、先生方の熱い思いや子どもたちへの愛情、未来へ向かっての夢など、あったかいものが溢れています。どれも今を生きている私たちが忘れてはならないものです。

世の中がどんなに目まぐるしく変化していても、陽光は陽光のままいて欲しい。そして、いつでも帰れる場所であって欲しいなあと思います。

●実行委員＆参加者の声

☆みんなのつどい

くす玉が割れるかドキドキしたけど成功してよかった。陽光らしい行事になった。参加した父母からも「楽しかった」と言ってもらい嬉しかった。何もなしとこころからいろいろ案を出して、本当にうまくいってよかった。当日はすこく楽しかった。子どものおかげで育てられていると実感しました。この取組でたくさん喜びと感動をもらいました。

☆レセプション

音楽あり、紙芝居もありのなかで歴史もわかり、70周年へとつなげていけるものだった。当日までの取組が楽しかった。ひとりでは紙芝居は作れない。みんなで創った！というものができて嬉しい。

ごあんない

◆陽光保育園卒園式

とき 3月21日(日) 午前9時

場所 陽光保育園ホール

◆陽光保育園60周年記念誌

来年3月刊行予定で、現在、編集作業を進めています。今しばらくお待ちください。

「大きなお芋」

5歳児編

ときとして思いもよらない姿を見せてくれる子どもたち。今回もそんな子どもの姿をご紹介します。5歳児編です。

掘り上げたお芋は特大サイズ

先日、4、5歳児で芋掘り遠足へ行ってきました。大きなお芋を掘り、子どもたちは大喜び。「このお芋、お家にお土産にするー」と、とてつもなく大きな芋をリュックサックに入れようとしていたのはSくんでした。

あまりの大きさに、保育士一同、「保育」まで自分で背負って帰るのだからリュックに入れてお芋はもう少し小さめのほうが良いよ」と声をかけました。でも、どうしても持って帰りたいがSくん。

「じゃあ自分でリュックに入れて、チャックを閉めてみたら」と私が言うと、「うん」とSくんはチャレンジ。でも、リュックからはみ出すほどビックサイズの芋はなかなかSくんの思うようにリュックには



途中で「疲れた」「重い」と言っても、それはそれでよい経験になると思っていたが、自分の言ったことを、最後まで頑張ったSくんを見ても、見方によっては「頑固」にも見えますが、3、4歳の子だったらできないなあと思うと、年長らしいひとこまでした。

(5歳児クラス担任 斉藤彩子)

入ってはくれませんでした。

なんとかりユックに詰め込んで

「やっぱり難しいんじゃない？」と言いつつも、あまりにもムキになっているSくんを見て、心の中で応援していました。数分の時間をかけて、やっとリュックのチャックを自分で開けたSくん。リュックに無理矢理入れたので、リュックは芋の形になり、上部はとんがっていました。さあ、今度はそれを背負ってみてどうか……。

重いはずなのに、「重くない！これなら持つて帰れる！」と言って頑張る気満々のSくんでした。そして、保育園までの道のり、ひとことも泣き言を言わず、しかも、4歳児の手を引きながら、帰ってきたのでした。

途中で「疲れた」「重い」と言っても、それはそれでよい経験になると思っていたが、自分の言ったことを、最後まで頑張ったSくんを見ても、見方によっては「頑固」にも見えますが、3、4歳の子だったらできないなあと思うと、年長らしいひとこまでした。

「保育大集会」に参加

保育予算の増額を求めて

11月3日、日比谷野外音楽堂で「保育大集会」が開かれ、全国から2800人の保育園関係者が集まりました。日光保育園からも職員や理事が参加しました。日光保育園は毎年、国の次年度予算編成に向けて、保育予算の増額を求め署名を集めています。翌4日にはその署名を手に、直接国会議員に現場の声を届けに行きました。



「保育大会」に参加した日光保育園職員と理事

待機児童が年々増えるなか、認可保育所の新設は追いつかず、不況により仕事をしたい人が増え、待機児童はさらに急増しています。この夏、政権が変わり、保育予算の増額が期待されましたが、現実には待機児童の解消を目的に「国の最低基準の廃止」が検討され、国の「保育所運営費負担金の削減」の方向も出されています。

最低基準の職員配置基準

Table showing staff-to-child ratios for different age groups: 0歳児 (1:3), 1~2歳児 (1:6), 3歳児 (1:20), 4歳児以上 (1:30).

*外国との比較では(3歳児の場合)

Table comparing staff-to-child ratios for 3-year-olds: ニューゼaland (1:6), アメリカ(NY州) (1:7), フランス (1:8), 日本 (1:20).

誰かが安心して子どもを預けて働ける環境をつくるのが政府の仕事のほうです。認可保育園の増設をすすめて待機児童を減らすことをぜひ検討し、実現してほしいと思います。

(日光保育園保育士 下堂前真美)

私の存在

我が家では妻が夜勤のとき私が主夫になります。仕事を早めに切り上げ、子どもたちを迎えにいき、家に着いたら子どもたちを勝手に遊ばせておいて晩ご飯の準備を始めます。

この主夫業は、子どもたちが生まれてからずっと続いていることなのですが、最近気づいたことがあります。それは、手の込んだ料理よりも、カレーやチャーハン、ラーメンといった手軽で単品で食べられるもののほうが子どもたちはよく食べてくれます。結構前のごとですが、食後のデザートにフルーツポンチ風の出したとき、娘に「これ何？」と真面目な顔で言われたことがあります。それから作っていません。

子どもたちの最近のお気に入り、ドライカレーです。これはドライカレーの元を売っているの、かなり手軽に作れます。子どもたちに「パパの作ったご飯おいしい？」と聞くと、小さいながらも気がつかっているの、誰に似たのでしょうか？

夜勤のときは必ず妻が休憩時に電話をします。それまで「パパー」「パパー」だった子どもたちは手のひらを返したように電話に飛びつきます。私の存在って？

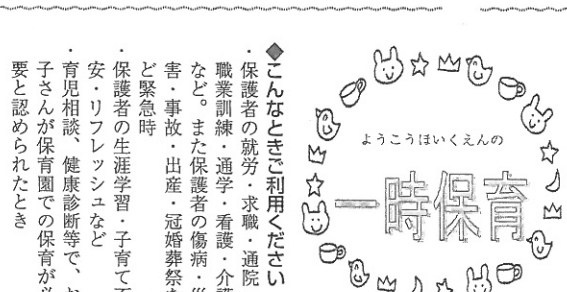
そんなママっ子の子どもたちですが、私は大好きです。子どもたちのためにいつまでも、どんなときも頼りになる強い親父になりたい、ならなければと思います。

(4歳児クラス・拓美の父 加藤史佳)



親子でいっしょにあそぼう

*日程 1月14日(内) 2月18日(内) 3月11日(内) *今年度はあと3回です。 *午前9時30分~11時、陽光保育園にて。タオルや着替えをお持ちください。詳しくは陽光保育園までお問合せください。



◆こんなときにご利用ください
・保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・災害・事故・出産・冠婚葬祭など緊急時
・保護者の生涯学習・子育て不安・リフレッシュなどで、育児相談、健康診断等、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき

◆利用日・利用時間など
・月曜日・金曜日の9時~17時(土・日・祝日・年末年始休)
・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」利用の方は生後10か月から。
・一日1時間~8時間(ご希望の時間帯で利用できます)
◆お申し込み・お問合せ
・直接陽光保育園へ。(受付時間10時~17時)
・緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申込んでください。
・事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)
・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問合せください。

◎寄付のご協力ありがとうございます。
(2009年7月15日~12月10日/順不同・敬称略)
浅羽正次、飯口フジ子、工藤淳子、山下澄子、向井芳子、矢野慶子、小川恵美子、松沼富佐子、中條恵、中山利子、匿名希望1名
財政活動(父母の会・後援会・職員・理事会)
◎社会福祉法人陽光会・建設財政連絡会より
・12月10日現在、今年度の寄付金の合計は、1,039,430円となっています。
・さつま芋やりんご等食品の寄贈があり、給食でも使わせていただきましたが、財政活動として、販売もさせていただきます。
・9月13日の60周年記念行事では、67件546,000円のお祝い金をいただきました。これは、記念行事の経費として、また3月発行予定の記念誌製作に使わせていただきます。皆様のご支援・ご協力に心から感謝いたします。ありがとうございます。
・なお、Tシャツ販売、食品販売、リズム講師派遣等の財政活動は引き続き行っていきます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

◎寄付のお願い(1口5000円/何口でもけっこうです)
下記口座に振り込みをお願いいたします。領収書が必要な方はお書き添えください。寄付金控除の対象になります。
郵便振替口座番号 00140-0-260468 口座名義 日光保育園建設委員会

引き裂かれた家族

今、韓国では、日本文化の開放で、映画、音楽、食べ物等が大いにもてはやされている。日本においても、サッカーの日韓ワールドカップ開催以来、ヨン様ブームや韓国映画・ドラマの大流行には目をみはるものがある。金曜日の夜などにJR新大久保駅に降り立つと、リトル韓国にくり出す人たちがあふれ返っている。数年前までは想像だにできなかったこの事態を、私はどこか白々とした気持ちで眺めてしまいます。本当に日本と韓国は友好的に理解しあっているのかと……。

わずか64年前、朝鮮が払った大きな犠牲と日本から受けた屈辱を私たちは忘れることができない。しかし、日本政府はなかったことにしようとする。最近では歪曲された歴史教科書が再び出版されるなど、あきれられるばかりだ。私たちが知らない、真の友好を願う日本人たちにとっても不幸なことである。本当のことを知る、伝える、認め合う、そこからしか相互理解は生まれないのではないかと私は思う。

私は1946(昭和21)年12月、宮城県で生まれました。前年の8月15日の終戦直後、私の家族一父、母、兄2人、姉1人は、父の故郷である朝鮮・慶尚北道襄陽郡に引き揚げました。日本も戦後は生活が大変だったように、長く故郷を離れていた父にとっても、自分の国での生活は食べることもままならない状況だったようです。ましてや日本人である母には厳しい現実が待ち受けていました。

そのころはまだ朝鮮半島から日本に引き揚げた連絡船があったため、母だけまず宮城に帰ってきました。そのとき私は母のお腹の中で6か月だったそうです。父は朝鮮人ゆえにその連絡船には乗れず、闇船で命からがら釜山から下関に上陸しました。闇船には15歳以下の子どもは乗せられなかったため、日本での生活が落ち着いたなら迎えにいくと約束して、子どもたちを親戚に預けました。

ところが5年後の1950年6月25日、朝鮮戦争が勃発。朝鮮半島は南北に分断されてしまいました。戦争は3年間つづき、1953年7月27日「休戦協定」が締結されます。しかしその後、父は別れた子どもたちと一度も会えないまま74歳で亡くなりました。

今、長兄は、父の年齢を超え、釜山に住んでいます。6年前、私をはじめ長兄を訪ねたとき、「子どものころ、アボジ(父)を恨んだこともあったよ。つらいこともたくさんあったけど、一番つらかったのは、夕方になると弟と妹が父を恋しがって泣くんだけ。俺だって会いたいの(に……)」と話してくれました。父と別れたとき、長兄は11歳だったそうです。

(板橋区在住)